



平成 21 年 4 月 17 日

各 位

熊本県熊本市南熊本三丁目 1 4 番 3 号
株式会社トランスジェニック
代表取締役社長 山村 研一
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 執行役員管理部部長 中川隆生
電話番号 078-306-0590

業績予想の修正と特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、昨年 5 月 15 日の平成 20 年 3 月期決算発表時に公表した平成 21 年 3 月期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の業績予想につき、売上高について差異が生じたことと、損益については特別損失を計上したことを含め下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 3 月期通期業績予想の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

(1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
前回発表予想(A)	360	△459	△478	△484	△4,443.38
今回発表予想(B)	325	△624	△605	△636	△5,831.60
増減額(B-A)	△35	△165	△127	△152	—
増減率(%)	△9.7	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 平成 20 年 3 月期	332	△644	△659	△884	△8,109.80

(2) 個別

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
前回発表予想(A)	320	△462	△444	△450	△4,126.13
今回発表予想(B)	292	△620	△593	△620	△5,684.89
増減額(B-A)	△28	△158	△149	△170	—
増減率(%)	△8.7	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 平成 20 年 3 月期	308	△641	△615	△872	△7,996.12

2. 差異および修正の理由等

売上高は、遺伝子破壊マウス事業および抗体事業については、概ね期初の計画通りに進捗いたしました。一方、試薬販売事業については、代理店向け販売は順調に推移したものの、顧客向け直販は期初の計画を下回りました。この結果、当期の売上高は、期初の予想と比較し差異が生じる見込みであります。

損益は前年同期より改善する見込みであります。試薬販売事業において販売促進費、販売代理店権利金および試薬販売ウェブサイト構築費用を一時費用として計上したこと、抗体事業において新たな抗体製品の開発に伴う研究開発費を期中に増額したことなどにより、営業利益、経常利益、純利益はいずれも期初の予想を下回る見込みであります。また、福岡支店閉鎖に伴う費用として事業所閉鎖損失 18 百万円を特別損失として見込んでおります。

以上

※上記の予想は、本資料発行日現在において入手可能な情報に基づく予想であり、不確定要素を含んだものです。実際の業績は様々な要素により、大きく異なる結果となる可能性があります。